全事研使用表記について

【参考資料】常用漢字表(平成22年11月30日内閣告示第2号)

公用文における漢字使用等について(平成22年11月30日付内閣訓令第1号)

文部科学省公用文送り仮名用例集

公用文用字用語の要点 (新日本法規 広瀬菊雄著 平成22年7月15日第20刷発行)

今後、全事研が作成し、外部へ出す資料に関しては、下記の統一表記を使用する。

あ	挨拶	\rightarrow	統一表記 あいさつ		備考
W	あげる	-	上げる		
	あげる	-	挙げる		
	(~して) あげる		あげる		
	あたる		当たる	例	調査に当たって
	あらためて	-	改めて	ν,	Ind Extend to 200
	在り方、あり方		在り方		
	有り難う		ありがとう		
	あわせて	-	併せて(副詞)		2つ以上のものを並べる場合
	あわせて		あわせて(接続詞)		2 3 0 1 0 0 2 2 1 3 物日
	案	<i>→</i>	(案)		現在の議案書、議事録等で表記
	活かす		生かす		
	致します		いたします		
	(~を) 頂く (動詞の場合)	-	頂く		もらう、食う、飲むの謙譲語
	(~して) いただく (補助動詞)		いただく		御+漢語+いただく (報告していただく、御配慮いただく)
	位置づけ		位置付け		
		-	世直がり 言われて		
	いわれていろんな		いろいろな		
	何う、窺う		伺う		聞く・尋ねる、問うなどの謙譲語
			うかがう		博士・等ねる、同りなどの謙譲前 様子を探る、見て察知することなどに使用する場合
	伺う、窺う		うかがえる		依子を採る、兄に祭和りることなどに使用りる場合
	窺える・・・の上、		···の上、		5t 12 4 47 0
		\rightarrow			読点を打つ
	打合せ、打ち合わせ	→	打合せ		
	促す、うながす		促す		
	嬉しい	-	うれしい		
	おいて、於いて		おいて		
	概ね		おおむね		
	行う、行なう	-	行う		
	行われる、行なわれる	-	行われる		
	おそらく		恐らく		1 T 1 P 1 P 1 P 1 P 1 P 1 P 1 P 1 P 1 P
	および		及び		A及びB、 A、B及びC、 A、B及びCの○○並びに△△は
,	お詫び		おわび		
カュ	一ヶ月	\rightarrow	一か月		
	掛かる		かかる	-	
	(~に) かかる	\rightarrow	(~に) 係る	例	本件に係る
	関わる、係る		かかわる		Add PT VI de
	か所		か所		算用数字→2か所 ×カ所
	箇所	-	箇所		漢数字→二箇所
	から		から		時・場所の起点を示す語につく (「より」は比較を表す場合に使用する
	今日	\rightarrow	本日		
	教委	\rightarrow	教育委員会		
	~してください	\rightarrow	ください、下さい		~~(して)ください(補助動詞)、下さい(動詞)
	~する事	-	~すること		
	御・ご		御挨拶、ごあいさつ		接頭語「ご」が付く語を漢字で書く場合は「御」、ひらがなで書く場合は「、
	この様に	\rightarrow	このように		
	こども、子ども、子供、子ども達、	\rightarrow	子ども、子どもたち		
	このたび	\rightarrow	この度		
さ	更に		更に(副詞)		
	更に	\rightarrow	さらに (接続詞)		
	さまざま、様々	\rightarrow	様々		
	~したいなと	\rightarrow	~したいと		
	従って	\rightarrow	したがって		
	~しまして	\rightarrow	~ (し) て	例	踏まえて
	ど切、締め切り	\rightarrow	締切り		

1

1	1:0		1.0	1	
	充分	\rightarrow	十分		
	既に	\rightarrow	すでに		
	全て	\rightarrow	すべて		
	素晴らしい	\rightarrow	すばらしい		
	ぜひ	\rightarrow	是非		
	全国公立小中学校事務職員研究会	\rightarrow	全事研(略称として使用する場合)		
	全国公立小中学校事務職員研究会		本会 (遜る場合)		なお、役員組織を本部と称するが、遜る際に本部とは言わない
					なわ、仅貝組献を平印とがりるか、速る所に平印とは目47ない
	育つ、育ち、育てる		育つ、育ち、育てる		
	揃う	\rightarrow	そろう		
た	誰	\rightarrow	だれ		
	たとえば、	\rightarrow	例えば、		
	たり	\rightarrow	~たり~たり		たりは繰り返す場合のみ。単独では使用できない。 (見たり聞いたり)
	つくり上げる	\rightarrow	作り上げる		
	辛い	\rightarrow	つらい		
	•				
	繋げる、繋ぐ	\rightarrow	つなげる、つなぐ		
	出来る	\rightarrow	できる		
	~っていう	\rightarrow	~という		
	~であったりですとか	\rightarrow	~であったり		
	~でありますとか	\rightarrow	~ですとか		
	~でしょうか	\rightarrow	~ガ	例	ございませんか
	~ですけども	\rightarrow	~ですが	М	
	~というような	<i>→</i>	~という		
				\vdash	
	とおして	\rightarrow	通して		
	~の通り	\rightarrow	~のとおり		
	とき・時	\rightarrow	とき (場合と同じ意味の場合)		
	とき・時	\rightarrow	時(時代・次期・時間などの意味を表す場合		
	とくに	\rightarrow	特に		
	とどまる、留まる	\rightarrow	留まる		
	~とともに、共に	\rightarrow	~ともに(句と句をつなぐ場合)		
	~とともに、共に	\rightarrow	共に(句の頭に使用し、一緒に何かをする場合)		共に~
	とりまとめ	\rightarrow	取りまとめ		× · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	取組、取組み、取り組み	→	取組(名詞) 取り組む(動詞)		文部科学省作成「公用文送り仮名用例集」より
					文部科子省下成「公用文医り仮名用例来」より
		\rightarrow	意味によって使い分け		
	取る				
	執る	\rightarrow	意味によって使い分け		
	執る 採る	\rightarrow		例	アンケートを採る
	執る 採る 捉え・とらえ	→ → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え	-	アンケートを採る ~と捉え、
な	執る 採る	→ → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け	-	
な	執る 採る 捉え・とらえ	→ → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え	-	
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い	→ → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない		
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中	→ → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか		~と捉え、 お忙しいなか、
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等	→ → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記)		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等	→ → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む)		~と捉え、 お忙しいなか、
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等	→ → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒	→ → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等	→ → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒	→ → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語
な	執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒 ならびに	→ → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語
な	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので 	→ → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語
な	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 	→ → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語
な	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 	→ → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す樹詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを妻す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを妻す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して) 市町村の方が
な	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 捉え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを妻す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを妻す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して) 市町村の方が
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 働き掛け 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 働き掛け 葉書 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 働き掛け 葉書 話合い、話し合い 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話合い		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 ならびに ~のあ ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 働き掛け 葉書 話合い、話し合い 話し合う 貼る 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話合い 話し合う(動詞) はる		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す勝同 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、 前を掛け 葉書 話し合う 貼る はる 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話合い 話し合う(動詞) はる 張る		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副同 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、 育み 働き掛け 葉書 話し合う 貼る はる ひとりひとり 		意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話合い 話し合う(動詞) はる 張る 一人一人		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して) 市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている 下段参照(貼るのままで可)
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 なにか 何卒 ならびに ~なので ~の為 ~の方がら、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 働き掛け 葉書 話合い、話し合い 話し合う 貼る はる ひとりひとり 拡げる 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話合い 話し合う(動詞) はる 張る —人一人		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す勝同 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して)市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒ならびに ~なので ~の為 ~の方が 狙い % 配布・配付育む、育み 働き掛け 葉書 話合う 貼る はる ひとりひとり 拡げる 日頃、日ごろ 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話合い 話し合う(動詞) はる 張る 一人一人 広げる		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す樹間 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して) 市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている 下段参照(貼るのままで可)
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒ないに ~のあ ~の方がる 狙い % 配布・配付育む、育み働き掛け業書話合い、話し合い話し合う 貼るはるのとりひとり 拡げる ひとりひとり 拡げる 音段 	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話し合う(動詞) はる 張る 一人一人 広げる 日頃 ふだん		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す樹間 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して) 市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている 下段参照(貼るのままで可)
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 ならびに ~の方から、~のほうから ~の方が 狙い % 配布・配付 育む、育み 働き掛け 葉書 話し合う 貼る はる ひとりひとり 拡げる 日頃、日ごろ 普段 ふまえて 		意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話合い 話し合う(動詞) はる 張る 一人一人 広げる 日頃 ふだん 踏まえて		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す樹間 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して) 市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている 下段参照(貼るのままで可)
	 執る 採る 捉え・とらえ 無い なお、尚 中 ~など、等 ~など、等 なにか 何卒ないに ~のあ ~の方がる 狙い % 配布・配付育む、育み働き掛け業書話合い、話し合い話し合う 貼るはるのとりひとり 拡げる ひとりひとり 拡げる 音段 		意味によって使い分け 意味によって使い分け 提え ない なお なか ~など(「など」と読ませたいときはひらがな表記) 等(「など」とは読まない。トウと読む) 何か なにとぞ 並びに ~ですので ~のため ~から そのまま ねらい パーセント 配布 はぐくむ、はぐくみ 働きかけ はがき 話し合う(動詞) はる 張る 一人一人 広げる 日頃 ふだん		~と捉え、 お忙しいなか、 それだけではなく、あくまで一例として挙げ、ほかにも同種のものがあることを表す副詞 同種のものを並べてあげて、そのほかにもまだあることを表す接尾語 使い方として「及び」がないところに並びは使わない (~と比較して) 市町村の方が %は記号 過去に使い分けられていたが、現在は法令により統一することが定められている 下段参照(貼るのままで可)

ĺ	僕ら	\rightarrow	私たち		
	他に	\rightarrow	ほかに(ほか1名、外1名)		他を、ほかと読むのは誤り
	ほしい	\rightarrow	・・・してほしい (補助動詞)		
	ほしい	\rightarrow	欲しい(自分のものにしたい・手に入れたい)		
	ほど	\rightarrow	程	例	御了解の程(程度の意味を表す場合は漢字)
	ほど	\rightarrow	ほど		形容名詞・副助詞の場合はひらがな
	本総会・本評議員会	\rightarrow	本総会・本評議員会		×今総会、×今評議員会
	ほんと	\rightarrow	本当		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
ま	益々	\rightarrow	ますます		
	または	\rightarrow	又は		
	また、又	\rightarrow	また		接続詞
	見積もり	\rightarrow	見積り		
	身につける		身に付ける		
	みんな、みな、みなさん、みなさま	-	皆、皆さん、皆様		
	持ち方	\rightarrow	もちかた	仮il	分科会のもちかた
	もつ	\rightarrow	(機会を)もつ、荷物を持つ	1/3	3711A47 0 37 72
	6 &	\rightarrow	下		
	もとづき	\rightarrow	<u>'</u> 基づき		
	もとづく	<i>→</i>	基づく		
	もとに	<i>→</i>	基に	-	
	めざす	<i>→</i>	目指す		
	申し込み、申込	<i>→</i>	申込み	-	
	元々	<i></i>	もともと	1	
	諸々	<i>→</i>	もろもろ	1	
	文科省	→ →	文部科学省	1	
<i>*</i>	やっぱり		やはり	1	
	山々	<i>→</i>	やまやま	Æ	行きたいのはやまやまですが
	<u>ロペ</u> ~の様だ	<i>→</i>	~のようだ	ניקו	113 (2000) (47 (47 (47 (47 (47 (47 (47 (47 (47 (47
	よい	<i>→</i>	良い	-	
	~ £ 9	<i></i>	~より	1	比較を表す場合に使用する (「から」は時・場所の起点を示す語につく)
	宜しく	<i>→</i>	よろしく	1	比較を衣り物音に使用する(「かり」は時・物別の起点を小り音にづく)
わ	わかる	<i>→</i>	分かる	-	
42		→ →		-	
	われわれ	<i>→</i>	我々	-	友達は漢字
	私達、君達 わかりにくい、わかりづらい		私たち、君たち 分かりづらい		及達は失子 分かる+辛い
*/-/-				lts)	
	漢数字を使う場合		漢字熟語、数的意味の薄いもの		一般的、五重の塔
	漢数字を使う場合	1	名詞として使用する場合	-	一つ、二つ、一人、二人、一日、二日
	算用数字を使う場合		概数として使用する場合	191]	1回、2回、1日目、2日目
/	二桁以上の数字		半角 金額にはカンマ(,)を入れる		
付・附	この5語に限り「附」を使う		附帯、附則、附属、附置	,6,	D.44) 7 校体部はパンジャを仕口よった。 4-27 ペインス 1.27 パール
接続詞	漢字で書く4語	及び、	並びに、又は、若しくは	一州	段的に接続詞はひらがなを使用するが、左記の 4 語は例外
氏名	フルネーム			1	
	正式名	光和主	ミ 和の担 <i>入に</i> 休田士で	1	
記号	[•]		表記の場合に使用する。		
			原則は、「」の中に、カギ括弧が必要な場合に使用する。		
	[5]	使用しなければならない明確な意図がない場合は使用しない。			

※「様」、「氏」は原則使わない。

※原則的に話し言葉は使用しない。